

平成25年度 海老名市社会福祉協議会  
災害救援ボランティアセンター開設運営訓練  
実施報告書

2013年9月1日

海老名災害ボランティアネットワーク

## 1 実施日及び実施場所

日 時：平成25年9月1日（日）9時00分～12時00分  
場 所：海老名市総合福祉会館1階

## 2 参加者

社 協：職員35名  
災ボラ：会員 9名      計 44名

## 3 訓練目的

海老名市発災時における社会福祉協議会職員としての行動を認識・理解することにより日頃からの危機管理意識を共有する。併せて、災害救援ボランティアセンターの開設訓練を行い、ボランティアを受け入れる体制の技術習得を目的とする。

## 4 訓練主催及び協力

主 催：海老名市社会福祉協議会  
協 力：海老名災害ボランティアネットワーク

## 5 訓練概要

### （1）被災想定

- 地震の種類   ：神縄・国府津 - 松田断層帯の地震
- 震源           ：同断層とその海域延長部、マグニチュード7.5
- 海老名市震度：最大震度6弱（観測点：大谷）
- 発災日時      ：平成25年8月31日 9時00分

### （2）参集想定

- 職員は到着次第すぐに作業ができ、長期滞在を視野にいれた準備を整え9時に福祉会館に参集する。

### （3）訓練実施内容

#### 参集

- 9時に福祉会館に集合し、1階第3娛樂室に資料を受け取り椅子に着いた。

## 開催の挨拶

- 社協事務局長の訓練開催の挨拶があった。  
東日本大震災後、被災地の各ボランティアセンターは、被災地の社協が中心になって開設運営されてきている。ここ海老名でも発災時は海老名社協がボランティアセンターの開設運営に携わることになる。  
社協職員がボランティアセンターについて、勉強しておく必要がある。

## 発災時に社協職員としての行動

- 増田次長が、別添社協災害時対応マニュアルを説明した。  
発災時に職員の動員を発令し、それぞれ分担配備につく。  
発災時の行動基準  
職員の参集手段、参集場所  
社協災害対策支援センターの開設、運営、開設場所  
神奈川県社協への災害時支援要請  
災害救援ボランティアセンターの開設、運営、開設場所  
添付資料等
- 平成22年版であり、その後の変化に対応すべく、今後改定していく。  
支援センターの開設場所、福祉避難所の開設場所等について、今後、海老名市と調整を取っていく。

## 海老名市シェイクアウト訓練参加

- 災害救援ボランティアセンターマニュアルの理解について、始める時に、10時になり、海老名市のサイレン（聴き取りにくかった）を合図にシェイクアウト訓練を行った。  
シェイクアウト訓練の開始を宣言し、机の下に入ることを依頼した。  
各自、机の下に潜り込み、1分間、そのまま動かずにいた。
- シェイクアウト訓練の終了を宣言し、シェイクアウト訓練について説明をした。  
アメリカから始まった。  
訓練の目的
  - ・ 災害時に怪我をしない、身近な人を助ける等基本行動
  - ・ ドロップ、カバー、ホールドオン
  - ・ 部屋の危険を防止しておく。
  - ・ 動く物、飛ぶ物、倒れる物、落ちる物の固定
  - ・ 割れる物の対策

## 災害救援ボランティアセンターマニュアルの理解

- 災ボラで、別添海老名市災害救援ボランティアセンターマニュアルの解説図で説明した。  
災害救援ボランティアセンターとは。  
災害救援ボランティアセンターの業務  
災害救援ボランティアセンターマニュアルの構成  
マニュアル上のセンター開設準備
  - ・ 中央公園にテントを設営する。被災者対応及びボランティア対応の各班の業務
  - ・ 開設訓練に必要な部分を説明。

- 別添資料を説明した。  
各班の帳票の流れ図  
各班配置帳票票  
センター設立・運営に必要な資機材一覧表

#### センター開設訓練開始

- 事前に決めてある各員が各班に分かれ、指定された部屋に入る。
- 班毎、文化会館防災倉庫に向かい、倉庫の状況を見学する。  
説明は社協（一部災ボラ）が行う。
- 班毎、担当班の箱及び資機材等を運び出し、指定された部屋に運び込む。  
組み立て式リヤカーを組み立て資機材を運ぶ。
- 各班は、部屋に図の様に、机、椅子を設置し、必要な掲示等を行う。
- 各班は、箱から帳票類等を出し、机の上に配置する。
  
- 各班は、業務内容の説明を受ける。  
説明は社協（一部災ボラ）が行う。
- 各班は、他の班の部屋を順に回り、部屋の状況等を見る。  
説明は社協（一部災ボラ）が行う。
- 各班の部屋を全ての班が回り終えたことを確認し、部屋の片付けを行う。
- 箱や資機材を、1階倉庫に運び込み、訓練を終了。
  
- 各班が訓練を行っている間、災ボラは、非常食の準備と、配布非常食を、第3娯楽室前に準備する。
- 訓練を終了した班毎に、第3娯楽室に集合し、用意した非常食と配布する非常食を受け取る。
  
- 用意した非常食を食べ終わり、社協さんの終わりの挨拶があり、第3娯楽室を片付けて、訓練を終了した。

## 6 考察

### 開設場所について

現在のマニュアルでは、ボランティアセンター開設場所は海老名市中央公園になっているが、今回の訓練は総合福祉会館1階をフルに使用して開設訓練を行った。このことで、テント設営がなく、各班の使用する部分が広く使用でき、また天候に左右されない訓練となった。各班の配置や室内の机の配置等も的確であり、好ましい訓練となった。

今後、ボランティアセンター設営場所が中央公園から総合福祉会館に変更になった時、マニュアルの改訂に今回の訓練成果が十分生かされると考えられる。今回は、1階をフルに利用したが、今後、2階の各室の活用も検討していく必要もある。

### 訓練について

今回は運営訓練を行わないで、開設した段階で終了した訓練であった。訓練を受ける社協職員は、ボランティアセンターそのものを知らなく、また、コーディネーター養成講座を受講した経験も無い方々であった。このことから、ボランティアセンターの構造と働きを知ることが重要であり、必要かつ十分な訓練であったと思われる。

1時間程度の座学の後、即ボランティアセンターを開設するという訓練であった。コーディネーター養成講座の場合は、座学の後、日を改めて、開設訓練を行うため、配布された資料を読んでくる時間があるが、今回はその時間がなく、訓練を受けた職員に戸惑いがあったようだ。しかし、各班単位に全員で倉庫に行き、的確な倉庫の説明を受け、必要な資機材を運び出し、各班に持ち込み、机を並べて帳票を並べ、的確な説明を受けたことで、このような業務をここでは行うということを理解できたのではないか。また他の各班を巡り説明を受け、全体の様子が少しは理解できたのではないかと感じた。

しかし、今回は、全員がスタッフのベストを着用しスタッフワッペンを着け、コーディネーター登録票記入やコーディネーター名簿の作成が出来なかった、また、ボランティアがどのように各室を巡るのか、矢印を添付することも出来なかった。これは、総務・渉外班の役割を持ったスタッフを選任しておらず、残念に思っている。次回はこの辺にも注意して訓練を行えばよいのではと感じた。

各室に用紙等を添付するときに、ガムテープが使用出来ず、養生テープを使用せざるを得ない事が判明したことは大きな収穫である。

今後、ボランティア役を交えて、訓練を重ねて行けば、発災時に戸惑いが無くなるのではと感じた訓練であった。特に、終了後、全員で同じ非常食を食べて、発災時にどうしようかという不安からくる重苦しい雰囲気が無くなり、楽しい訓練となったように感じた。

## 準備について

訓練に必要な帳票類の準備や、資機材等の準備を行ったが、まだ、文房具等の準備が不足しており、今後十分に検討し準備しておく必要を感じた。計算用具、穴開けパンチ、保存帳票用ファイル等は班毎に準備しておく必要がある。

班毎にボックスを準備したのは良かったが、何箱あるのか不明で、持ち出しに戸惑いがあったようである。例えば(1/全体数)等のテープライターを貼って置く方が間違いが少ないと感じた。何箱もある班や1個の班もあり、準備する方で考えておくべきであった。

また、被災者対応、ボランティア対応の各班に共通する資機材等を入れておくボックスを用意し、総務・渉外班として準備しておく必要もある。スタッフ用ベスト等はあらかじめ各班に分配しておくより、後から必要人数分を配布した方が混乱を来さないと考える。この辺も事前にしっかりと準備しておくべきであった。

図面等の大きなものも、筒等のケースに入れて保存しておく必要を感じた。搬出が行いにくく、天候不順の場合は、濡れたり汚れたりする可能性が高い。また、班名を添付出来ないことから搬出を忘れる恐れもある。

事前の準備が如何に重要であるかを再認識させられた訓練であった。

今回の訓練は、運営を行わなかったため、被災者ニーズについて問題になってはいないが、訓練用の被災者ニーズをしっかりと準備しておくべきであった。被災者個人の家庭に飲料水や食料等を運び込むのを、ボランティアに行わせるべきではないと考える。また、海老名市では発災時に迅速に救援活動行う「災害時協力車両」の登録を行っている。このため、救援物資の配送をボランティアが直接行うことは限られてくるので、その辺も考慮したニーズを作成しなくてはならないと考える。

今後検討を重ね、次回の訓練時には現実味のあるニーズで訓練して行きたい。

## 全体について

全体を通して見れば、事前の準備に問題が多々あることは否めないが、訓練は、十分にその目的を達成できたと考える。社協災害寺対応マニュアル、海老名市災害救援ボランティアセンターマニュアルの両マニュアルとも、東日本大震災後の変化に対応すべく改定を検討中であり、現行マニュアル通り行うことに無理があることを承知しての訓練であった。

確かに現実にはマニュアル通り行えないと言われており、日々の変化に対応しながら行うことになるとは承知している。しかし、基本的な部分を習得していなければ、変化への対応も困難と考えるし、基本的な部分は、マニュアルに記されていることから、訓練ではマニュアルを元に行うべきと考えている。

マニュアルの改訂には海老名市の防災対策の変化が必要で、来年度になる予定と聞いている。それまでに、今回の訓練を踏まえ十分検討しておく必要があると考える。